

★ 重点的に取り組む主な経営課題 ★

経営課題の概要	主な戦略や具体的取組
<p>【経営課題1】 人と人がつながり、城東区を誇りに思えるコミュニティ豊かなまちに</p> <p>さまざまな活動主体が互いに連携して活動し、コミュニティが豊かになっている</p>	<p>【戦略1-1】地域におけるつながりを通じたまちづくり 【1-1-1】地域活動協議会に対する支援 [予算額 58,873千円]</p>
<p>【経営課題2】 地域で支えあう安全で安心なまちに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する備えが充実している ・住民同士が助けあう体制が整っている ・区民が安全で、安心に暮らせる 	<p>【戦略2-1】自助・共助を基本とした災害に強いまちづくり 【2-1-1】防災力の向上 [予算額 36,594千円]</p> <p>【戦略2-2】犯罪の少ない安全で安心なまちづくり 【2-2-1】犯罪抑止力等の向上 [予算額 13,112千円]</p>
<p>【経営課題3】 安心して子育てができ、心豊かに力強く未来を切り拓く子どもを育むまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、幼稚園などが充実し、安心して子育てができる ・子どもたちの可能性を育むまちづくり 	<p>【戦略3-1】子育て世帯が安心して、生き育て、働くことができるまちへ 【3-1-1】子育て支援事業の推進 [予算額 36,321千円]</p> <p>【戦略3-2】子どもたちの可能性を育むまちづくり 【3-2-1】子どもたちの学校生活充実化事業 [予算額 30,952千円]</p>
<p>【経営課題4】 地域が支えあい、住みなれた場所で安心して暮らせるまちへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方、高齢者や子どもを地域のみんなが互いに見守り、支えあう ・地域で暮らす高齢者に医療・介護等の必要な支援を切れ目なく提供する 	<p>【戦略4-1】高齢者、障がい者、子どもを地域が互いに見守り、支えあうまちへ 【4-1-1】地域福祉支援事業 [予算額 23,211千円]</p> <p>【戦略4-2】高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるまちへ 【4-2-1】地域包括ケアシステムの推進 [予算額 774千円]</p>
<p>【経営課題5】 区民の皆さんに信頼される区役所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民が利用しやすい便利で親切な区役所 ・多様な区民の意見やニーズを区政に反映し、地域実情に応じた区政運営が行われており、区民がそれを実感している状態 	<p>【戦略5-1】コンプライアンスの確保 【5-1-1】職員のコンプライアンス意識の向上 [予算額 - 円]</p> <p>【戦略5-3】区民の皆さんとすすめる区政運営 【5-3-2】区民ニーズの的確な把握と積極的な情報発信 [予算額 33,809千円]</p>



城東区 × SDGs

～ 城東区では、「城東区SDGs行動指針」に基づき、SDGsの取組を進めています ～

SDGs（エスディー・ジーズ）とは、「持続可能な開発目標」という意味です。2030年までに達成すべき、開発が進んだ国もまだ途中の国も、国も地方も、会社も学校も、大人も子どもも、あらゆる垣根を超えて協力し、より良い未来をつくろうと国際連合で決まった17の目標（ゴール）です。

城東区では「住んでよかったと思えるまち」の実現をめざし、地域社会の課題を解決し、運営を持続できるよう、SDGsを意識した区政運営を心がけています。



本市におけるSDGsの達成に向けた取組の一環として、区においてもSDGsの視点から施策の見える化を図ることにより、SDGsについての認知度向上を図り、SDGsの達成に資することをめざすため、この運営方針の各経営課題に、対応する主な「17のゴール」を記載しています。



主な取組と関連するSDGs(例)

SDGsは、城東区が進めている様々な取組と密接な関わりがあります。「広報誌、ホームページ等を通じた情報発信による普及啓発」や「SDGsサミットの開催等による関係者との連携の創出」を図るとともに、SDGsの取組をさらに進めていきます。

目標3[保健] すべての人に健康と福祉を

- 子育て支援事業の推進 [具体的取組3-1-1]
- 地域福祉支援事業 [具体的取組4-1-1]
- 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業 [具体的取組4-1-2]



目標4[教育] 質の高い教育をみんなに

- 子どもたちの学校生活充実化事業 [具体的取組3-2-1]



目標11[持続可能な都市] 住み続けられるまちづくりを

- 地域活動協議会に対する支援 [具体的取組1-1-1]
- 各地域活動協議会との意見交換 [具体的取組1-1-1 / 5-3-1]
- 防災力の向上 [具体的取組2-1-1]



目標16[平和] 平和と公正をすべての人に

- 犯罪抑止力等の向上 [具体的取組2-2-1]



目標17[実施手段] パートナーシップで目標を達成しよう

- 区政会議を効果的に運営 [具体的取組5-3-1]
- 各地域活動協議会との意見交換 [具体的取組1-1-1 / 5-3-1]

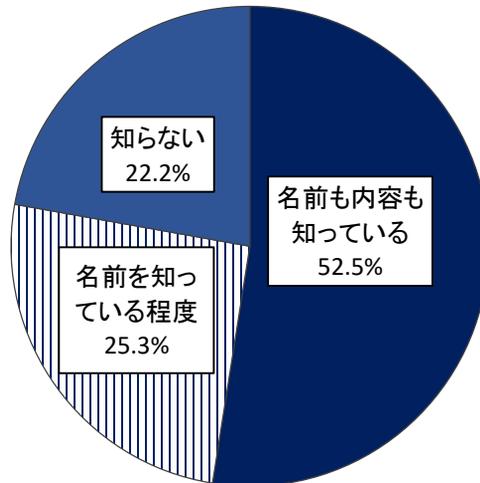




令和3年度区民アンケート結果（抜粋）

問11 あなたは、「SDGs（エス・ディー・ジーズ、持続可能な開発目標）」という言葉を知っていますか。

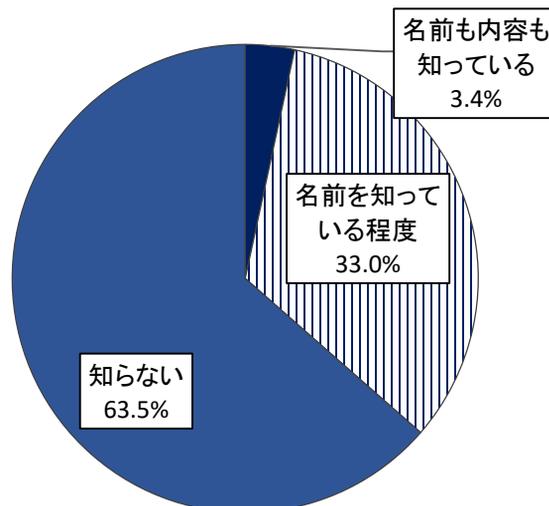
	項目	回答数	%
1	名前も内容も知っている	274	52.5
2	名前を聞いたことがある。ロゴを見たことがある	132	25.3
3	知らない	116	22.2
		回答者数	522



【問11で「1. 名前も内容も知っている」もしくは「2. 名前を聞いたことがある。ロゴを見たことがある」と回答された方にお聞きします。】

問12 城東区は区政全般にわたりSDGsへの取組みを推進していますが、あなたはそのことを知っていますか。

	項目	回答数	%
1	知っている	14	3.4
2	具体的な内容は知らないが、推進していることは知っている	134	33.0
3	知らない	258	63.5
		回答者数	406



新型コロナウイルス感染症への対応について

本運営方針策定時点でも、今般の新型コロナウイルス感染症は世界的に拡大しており、先行きも不透明であることから、その影響を注視しつつ、城東区として対応できる取組を進めています。

主な取組

- 新たな生活様式を意識した活動再構築等の支援 [具体的取組1-1-1]
- コロナ禍における避難所ガイドライン作成支援、感染症対策物資を含む避難所備蓄物資の随時増強 [具体的取組2-1-1]
- YouTube等を活用した保活に関する情報発信 [具体的取組3-1-1]
- 新型コロナ等の状況も踏まえた地域における福祉支援のあり方について取組を進めていく [具体的取組4-1-1]
- 多職種研修会研修用動画資料作成 [具体的取組4-2-1]
- 郵送による申請勸奨、比較的すいている日曜開庁日への誘導、システムを活用した事前予約制の実施、手指消毒液・飛沫防止シートの設置等 [具体的取組5-2-1]
- コロナ禍をふまえた区政会議運営方法を検討 [具体的取組5-3-1]
- SNSを利用した意見聴取の取組を実施 [具体的取組5-3-2]

その他の取組

(庁舎内における取組)

- コロナ対策方針等の掲示
- 定期的な換気、手指消毒液の配備と定期的な清掃、待合スペースにおける距離の確保
- 職員のマスク着用、事務室内のパネル等を設置

(区民の皆さんへの啓発・情報発信)

- 区広報誌、ホームページ、SNS等で継続的な注意喚起・広報周知
- 城東チャンネルで最新情報の発信
- 庁舎内アナウンス、区青パトでのアナウンス
- シトラスリボンプロジェクトの推進

(ワクチン接種)

- 城東区新型コロナウイルスワクチン接種推進調整会議の設置
- 新型コロナウイルスワクチン接種の安全性及び副反応情報等の提供
- 区役所や地域での接種予約支援

次ページ以降の、各経営課題・戦略・具体的取組について、区政会議の所管部会を下記の記号で表しています。

地域福祉部会 **福** こども・教育部会 **こ** まちづくり部会 **ま**

経営課題1

主なSDGsゴール
11 [持続可能な都市]
17 [実施手段]



人と人がつながり、城東区を誇りに思える コミュニティ豊かなまちに

ま

めざすべき将来像（概ね10～20年間を設定）

さまざまな活動主体が互いに連携して活動し、コミュニティが豊かになっている

現状・データ

令和3年度区民アンケート

[問7]城東区は住みやすいまちと感じる 97.3%

[問8]住みやすいと感じる主な理由

- 鉄道やバスなど、交通が便利（40.7%）
- 買い物に便利（26.3%）
- 通勤・通学が便利（9.7%）
- 近くに親戚や友人など、親しい人がいる（7.9%）
- 治安がよい（4.7%）
- 医療や福祉関係の施設が充実している（3.4%）
- 公園や自然環境がある（3.2%）
- 子育てしやすい（2.4%）
- 近所づきあいがよい（0.8%）
- その他（1.0%）

[問11]城東区に愛着を感じる 89.5%

[問12]愛着を感じる主な理由

- 交通の便利が良いから（40.9%）
- ふるさとであるから（18.5%）
- まちの雰囲気が良いから（17.0%）
- 地域のコミュニケーションが良いから（6.7%）
- 施設が充実しているから（6.7%）
- まち・道路が整備されているから（2.8%）
- 地域の自然環境が良いから（2.3%）
- 歴史・伝統が残っているから（1.5%）
- 景観がよいから（0.2%）
- その他（3.4%）

（3ページ掲載データ再掲）

（4ページ掲載データ再掲）

◆令和3年度区民アンケート：[問14]住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じますか。

（単位：%）【N=520】

問14	1. 感じる	2. ある程度感じる	3. あまり感じない	4. 感じない	無回答	
全体	7.5	47.1	29.2	16.2	0.0	
年齢別	29歳以下	9.1	36.4	27.3	27.3	0.0
	30歳～39歳	7.6	33.7	31.5	27.2	0.0
	40歳～49歳	5.6	51.2	31.2	12.0	0.0
	50歳～59歳	9.7	45.6	33.0	11.7	0.0
	60歳～69歳	4.7	54.1	25.9	15.3	0.0
	70歳～79歳	10.4	56.3	27.1	6.3	0.0
	80歳以上	8.3	83.3	0.0	8.3	0.0

現状・データ

◆令和3年度区民アンケート:[問15]住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じる主な理由をお選びください。

問15	1. 日頃からあいさつをする相手がいるから	2. 祭りなど地域イベントに参加しているから	3. ボランティア活動に参加しているから	4. 子育てや学校を通じて知り合いがいるから	5. サークルや習い事を通じて知り合いがいるから	6. ラインやフェイスブックなどのSNSで知り合いがいるから	7. その他	無回答	(単位:%) 【N=284】
全体	62.3	7.0	2.8	19.4	4.6	2.5	1.4	0.0	
年齢別	29歳以下	64.0	8.0	4.0	12.0	0.0	12.0	0.0	
	30歳～39歳	52.6	2.6	0.0	36.8	0.0	2.6	5.3	
	40歳～49歳	52.1	9.9	0.0	33.8	1.4	0.0	2.8	
	50歳～59歳	71.9	5.3	1.8	14.0	3.5	3.5	0.0	
	60歳～69歳	64.0	14.0	8.0	8.0	4.0	2.0	0.0	
	70歳～79歳	68.8	0.0	6.3	6.3	18.8	0.0	0.0	
	80歳以上	81.8	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	

◆地域振興会(町会)への加入率 70.23% (令和4年1月1日現在)

◆令和3年度区民アンケート:[問27]区役所が様々な取組(施策・事業・イベントなど)について、企画・計画段階から区民の参画や協働を得るように努めていると思いませんか？

項目	回答数	%
1 思う	37	7.1
2 ある程度思う	248	47.7
3 あまり思わない	178	34.2
4 思わない	57	11.0
回答者数	520	

分析

- ・住みやすいまちと感じる区民は多いが、その理由の大半は「交通や買物が便利」であり、「近くに親しい人がいる」は7.9%、「近所づきあいがいよい」は0.8%と低い数値になっている。
- ・「つながり」「きずな」について、住民同士の「つながり」等があると感じる、ある程度感じると答えた方の理由は、「日頃からあいさつをする相手がいるから」がどの年代においてももっとも多く、30～49歳は50%台であるが、その他の世代では60%以上となっている。また、29歳以下では、「ラインやフェイスブックなどのSNSで知り合いがいるから」が12.0%であり、年齢層や生活スタイルの状況によって違いが生じている。
- ・自らのまちは、自らでつくろうという方向性を持ち、さまざまな活動主体がまちづくり、音楽、スポーツなど幅広く活動を展開しているが、「区民の参画や協働を得るよう努めていると(ある程度)思う」は、54.8%であり、区民が自ら活動に参加し、つながりの輪を広げる取組が不十分である。

課題

- ・交通や買物に便利という理由だけでなく、地域コミュニティや都市魅力を理由としてまちに愛着を感じ、また、年齢を問わず、「つながり」「きずな」を感じるまちづくりへの取組が不足している。
- ・感染症の拡大状況により、予定事業の中止や縮小、運営方法の変更などが生じたため、各種事業開催について区民からの要望も多く、現状を踏まえた開催方法の検討が必要。

【戦略1-1】

ま

地域におけるつながりを通じたまちづくり

めざす成果（概ね3～5年間を設定）

《めざす状態》

- 地域において様々な活動主体が、新たな生活様式を意識したうえで連携を進めることで、コミュニティが豊かになり、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態。

《成果目標》

- 住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じる割合（区民アンケート）
令和4年度 70%以上（令和3年度実績 54.6%）
- 地域活動協議会¹の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合
令和5年度 90%以上（令和3年度実績 81.5%）

戦略

- コロナ禍が継続している場合において、各事業への住民参加によるつながりづくりが困難な中、新たな生活様式を意識した各地域活動協議会における活動実施を支援する。
- 区広報誌とホームページや各地域活動協議会Facebook等とを連動させた手法で広く区民に周知し、新たな担い手の発掘や各地域活動協議会における地域課題解決やコミュニティづくりへの寄与など、地域活動協議会が自律した活動を支援する。



用語解説

1 「地域活動協議会」とは、おおむね小学校区を範囲として、地域団体やNPO、企業など地域のまちづくりに関するいろいろな団体が集まり、話し合い、協力しながら、さまざまな分野における地域課題の解決やまちづくりに取り組んでいくための仕組みです。

具体的には、次のような点を備えたさまざまな活動主体の連合組織を、地域活動協議会として位置付けています。

ア おおむね小学校区域を単位として活動することを基本としていること

イ 地域住民の組織をはじめ、ボランティア団体、NPO、企業など地域のまちづくりに関するさまざまな活動主体が幅広く参画していること

ウ 民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が確保されていること

エ 特定の分野ではなく、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境、文化・スポーツなど広く地域のまちづくり全般を活動対象としていること

城東区では16地域において形成されています。

戦略1-1の具体的取組

【1-1-1 地域活動協議会に対する支援】

ま

- ① 区役所・中間支援組織（まちづくりセンター）²による地域活動協議会活動支援
 - ・各地域活動状況の情報収集と情報共有支援
 - ・新たな生活様式を意識した年度内活動再構築等の支援
- ② 各地域活動協議会の活動内容等の情報発信支援
 - ・区広報誌において、地活協の意義、機能にかかる情報発信、地域活動の紹介記事掲載と各地域活動協議会のFacebookや区ホームページ内、城東区情報発信動画「城東チャンネル」等への誘導體制整備（紙媒体と電子媒体の連動）
 - ・区民情報コーナーへの各地域活動協議会広報誌・イベント周知配架
 - ・転入者用情報提供コーナーでの町会加入啓発ビラの配布を実施

【業績目標】

地域活動協議会を知っている区民の割合 54.0%
 （令和3年度実績 56.5%）
 地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合 85%
 （令和3年度実績 81.5%）

【撤退・再構築基準】

前年度の実績を下回る場合は実施手法を再構築する。

【前年度までの実績】

（令和3年度実績）

- ・全地域活動協議会と区長の意見交換会を開催し、課題収集と個別アドバイス等を実施（計31回）
- ・「地域活動の再開ガイドライン」城東区版を活用し、感染防止の注意事項を周知（計7回更新）
- ・事業の中止・変更に伴う会計面での相談支援（全16地域実施）
- ・コミュニティ回収・ペットボトル回収の実施に向けた環境事業センター説明会のコーディネート（計10地域で複数回実施）
- ・SNSやホームページを用いた情報発信の継続支援
- ・全16地域で計380回SNS更新
- ・城東区情報発信動画「城東チャンネル」にて「各地域活動協議会活動報告」を企画し、地域活動を紹介（計11地域）
- ・新たな担い手（ボランティア）募集等のポスターを区内広報板へ掲出（区内85か所）
- ・区広報誌等における地域活動協議会の意義、機能の情報発信や、活動紹介の継続（区広報誌7月号に活動紹介特集記事掲載）
- ・各地域活動協議会広報誌等を区民情報コーナーへ配架
- ・転入者用情報コーナーに町会加入啓発ビラの配架、「町会加入案内チラシ（城東区地域振興会事務局作成）」を保険年金担当スペース・総合案内ラックに配架

R2 決算額	52,517千円	R3 予算額	57,186千円	R4 予算額	58,873千円
-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------

予算の主な増減理由	【地域活動協議会活動費補助金・運営費補助金】 ・支出内容、単価等の見直しによる増 【新たな地域コミュニティ支援事業】 ・支出内容、単価等の見直しによる増
-----------	---



用語解説

² 地域活動や課題解決に主体的に取り組む地域活動協議会の自律運営に向け支援を行う組織。

【戦略1-2】

区民が生き生きと活躍している 魅力あるまちづくり

ま

めざす成果（概ね3～5年間を設定）

《めざす状態》

- 多くの区民が区民が主体の様々なまちづくりに関連する事業又は企画に参加し、区民の活躍で魅力あるまちづくりが進む状態。

《成果目標》

- 区民が主体の事業に参加したいと思う割合（区民アンケート³）

令和4年度 60%以上

（参考：令和3年度区民アンケート）

企画・計画段階から区民の参画や協働を得るように努めていると思う割合 54.8%

戦略

- 「城東区ゆめ～まち～未来会議」⁴や「アイラブ城北川実行委員会」⁵など区民が主体的に活動する幅広い層のまちづくり担い手の自主的活動が活性化するように活動を支援し、区民との懸け橋となる。
- 多くの方が音楽や芸術にふれあえる機会の提供と子どもたちの音楽活動など様々な活動の場を支援する。
- 「区民による緑化活動」を支援するとともに緑化活動を推進する人材育成を行う。
- 小学校等を拠点として取り組まれている生涯学習活動を支援し、地域コミュニティづくりを推進するとともに文化・スポーツを通じて子どもから高齢者までが気軽に交流できるような場所づくりを行う。



用語解説



³ 多様な意見やニーズを把握し、その結果を区の事業実施や事業改善に反映させ、区政運営のより一層の充実を図る目的で、住民基本台帳により無作為に抽出した区民を対象に実施しているアンケート調査。

⁴ 平成16年度に組織され、平成18年度から10年間を目標とした「城東区未来わがまちビジョン」の実現に向けて活動し、現在も区民が主体のまちづくりをめざし、「城東区SARUGAKU祭」や「JOTO区ラシック」などの事業に主体的に取り組んでいる区民で構成する組織。

⁵ キャンドルナイトin城北川などの事業を通じて、城北川の魅力を発信している区民で構成する組織。

戦略1-2の具体的取組

【1-2-1 多様な活動主体と協働したまちづくり】

ま

各種まちづくりの担い手である以下の各種団体、学校園が実施する文化芸術活動、健康づくり事業を広報の協力など支援し、区民との懸け橋となり、豊かなコミュニティの醸成を行うことにより、区民主体の魅力あるまちづくりが進む環境づくりを行う。

- ・ アイラブ城北川実行委員会
- ・ はなびとコスモスタッフ等緑化ボランティア
- ・ 城東区ゆめ～まち～未来会議
- ・ スポーツレクリエーション協会等スポーツ関係団体
- ・ 人権啓発推進員
- ・ 生涯学習推進員
- ・ その他ボランティア団体

【業績目標】

事業アンケートにおいて、人とのつながりづくりに有効と考える区民の割合 60%

【撤退・再構築基準】

有効と考える区民が50%に満たない場合再構築

【前年度までの実績】

- (令和3年度実績)
- ・ キャンドルナイトin城北川
 - ・ 種から育てる地域の花づくり事業
 - ・ 緑化リーダー育成講習会
 - ・ 城東区ゆめ～まち～未来会議事業の開催支援
 - ・ 吹奏楽フェスティバル
 - ・ 各種区民スポーツ大会の開催支援
 - ・ 人権サミット
(参加者数：約100人)
 - ・ 生涯学習フェスティバル
(参加者数：約600人)

R2 決算額	4,697千円	R3 予算額	9,011千円	R4 予算額	6,541千円
-----------	---------	-----------	---------	-----------	---------

予算の 主な増 減理由

- 【多様な活動主体と協働したまちづくり】
- ・ イベント周知用の印刷物経費に係る減
- 【区民が主体の「花と緑のまちづくり」事業】
- ・ 緑のカーテン事業の見直しによる減
- 【芸術文化の薫るまちづくり】
- ・ 吹奏楽フェスティバルの業務委託見直し等による減
- 【区民スポーツ事業】
- ・ 体力測定機器等の買入に係る増
- 【区における人権啓発推進事業】
- ・ 人権啓発イベント業務委託に係る増
- 【生涯学習・生涯スポーツ等の活動を通じた地域コミュニティづくり事業】
- ・ 地域連携支援事業の見直し等による減

経営課題2

主なSDGsゴール
11 [持続可能な都市]
16 [平和]



地域で支えあう安全で安心なまちに

ま

めざすべき将来像（概ね10～20年間を設定）

- ・ 災害に対する備えが充実している
- ・ 住民同士が助けあう体制が整っている
- ・ 区民が安全で、安心に暮らせる



現状・データ

- ・城東区は、旧大和川流域に属する市内東部の低湿地帯に属し、標高は1～2mと区域全般に低く平坦であり、東西、南北に河川が流れ大雨による浸水被害を受けやすい地理条件にある。
- ・マグニチュード9クラスの南海トラフ巨大地震が発生した場合、城東区内では最大震度6弱が想定されており、あわせて津波浸水被害があるとされている。
- ・犯罪の発生状況については、総件数は減少（令和元年1,370件→令和3年1,025件）している。「自転車盗（令和元年545件→令和3年416件）」も大幅に減少しているものの件数は他区と比較すると多く、「部品ねらい（令和2年37件→令和3年51件）」は増加傾向にある。

◆令和3年度区民アンケート:[問19]これまでに、お住まいの地域の防災活動に参加したことがありますか。

年齢別	参加したことがある	活動は知っていたが参加したことはない	活動していることを知らなかった	計
29歳以下	7.3	32.7	60.0	10.6
30歳～39歳	10.9	31.5	57.6	17.7
40歳～49歳	23.2	37.6	39.2	24.0
50歳～59歳	29.1	43.7	27.2	19.8
60歳～69歳	32.9	41.2	25.9	16.3
70歳～79歳	37.5	35.4	27.1	9.2
80歳以上	41.7	50.0	8.3	2.3
計	23.8	37.9	38.3	100.0

(単位:%)【N=520】

◆令和3年度区民アンケート:[問23]あなたのお住まいのまちが安全で安心だと感じますか。

年齢別	感じる	ある程度感じる	あまり感じない	感じない	計
29歳以下	16.4	52.7	27.3	3.6	10.6
30歳～39歳	13.0	58.7	22.8	5.4	17.7
40歳～49歳	12.0	59.2	24.0	4.8	24.0
50歳～59歳	11.7	69.9	18.4	0.0	19.8
60歳～69歳	12.9	55.3	24.7	7.1	16.3
70歳～79歳	12.5	68.8	16.7	2.1	9.2
80歳以上	8.3	83.3	8.3	0.0	2.3
計	12.7	61.3	22.1	3.8	100.0

(単位:%)【N=520】

分析

・令和3年度区民アンケートにおいて、地域の防災訓練などの防災活動に参加したことのある割合は、「活動していることを知らなかった」が最も多く38.3%、「活動は知っていたが参加したことがない」が37.9%、「参加したことがある」が23.8%となっている。

その中で、29歳以下が「参加したことがある」は、7.3%と低く、若年層の認知度が低い傾向を示している。

・お住まいのまちが安全で安心だと感じる割合について、「感じる、ある程度感じる」が74.1%に対して、「感じない、あまり感じない」は25.9%となっている。

課題

- 災害発生直後は、地域の自主防災組織による安否確認や救出・救助等の「共助」の取り組みが重要であるが、組織構成員の高齢化が進んでいる。
（65歳以上の区内防災リーダー・・・令和3年：344名 57.2%）
- 住民の高齢化が進んでおり、災害発生時の避難行動要支援者（高齢者や障がい者等）が多い。地域で実施する防災訓練への参加者も高齢者の方が多く、若年層の参加促進が求められている。
【大阪市避難行動要支援者名簿・・・8,406人（城東区）】
- 街頭犯罪件数については、全体の件数は減少しているが、「自転車盗」については減少しているものの発生件数が多く、「部品ねらい」も増加傾向にある。

【戦略2-1】

自助・共助を基本とした災害に強いまちづくり

ま

めざす成果（概ね3～5年間を設定）

《めざす状態》

- ・住民各自が日頃から災害に対する備えを行い、災害が発生しても、避難行動要支援者⁶（高齢者や障がい者等）を含めた地域の住民同士が助け合い、安全な環境で避難所を開設・運営できる状態

《成果目標》

- ・地域が防災活動に取り組んでいると思う割合（区民アンケート）
令和4年度 70%以上（令和3年度実績 57.1%）

戦略

- ・災害に強いまちをめざして、地域ごとの防災マップの作成支援と、防災計画のブラッシュアップ支援を行うとともに、区防災拠点を活用した区防災訓練、地域で開催する避難所開設訓練、図上訓練等、各種防災訓練を充実する。
- ・子育て世代向けやマンション住民向けの防災出前講座を開催し、幅広い層の住民に自助・共助や地域における人と人のつながりの重要性など防災意識を向上させる。
- ・避難行動要支援者（高齢者や障がい者等）を対象に、地域との情報共有を進める。



用語解説

⁶ 要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、児童、傷病者、外国人など、特に配慮を要する者）のうち、自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者を避難行動要支援者といい、次のような状態の人々が該当します。

- ・移動が困難な人
- ・日常生活上介助が必要な人
- ・情報入手したり、発信したりすることが困難な人
- ・急激な状況の変化に対応が困難な人
- ・薬や医療装置が常に必要な人
- ・精神的に著しく不安定な状態を来す人
- ・言語、文化、生活習慣への配慮が必要な人

戦略2-1の具体的取組

【2-1-1 防災力の向上】

ま

- ① 防災サミットの開催
- ② 地域ごとの防災マップの作成支援と、必要により防災計画のブラッシュアップ支援
- ③ 地域における防災訓練の開催支援
 - ・避難訓練をはじめとする各地域の防災訓練の充実
 - ・小学校の児童参加など学校や医療機関と連携した防災訓練の開催
- ④ 備蓄物資の増強など避難所の機能強化
- ⑤ 区防災訓練の充実
- ⑥ 城東区「災害に備える日」に災害関連情報の発信
- ⑦ 小・中学生を対象にした防災学習の実施
- ⑧ 個別避難計画の作成支援
- ⑨ もと区民ホールを活用した防災倉庫の整備

【業績目標】

「ふれあい城東」やTwitterやFacebook等を見たとき回答した区民のうち、防災意識が向上したと回答した区民割合が前年度実績以上（区民アンケート）

【撤退・再構築基準】

上記アンケート結果が前年度実績を10%以上下回った場合、手法を再構築する。

【前年度までの実績】

- （令和3年度実績）
- ① 防災サミットの開催
 - ② 全地域の防災マップ作成支援
 - ③ 区役所職員による災害本部立上訓練及びHUGの実施
 - ④ 備蓄物資の計画的配備及び上階移動（14校移動済）
 - ⑤ 13地域の防災訓練開催
 - ⑥ 毎月21日災害に備える日に災害関連情報のSNSや庁内放送による発信、ふれあい城東へ周知啓発記事の掲載、各地域集会所に「のぼり」掲出
 - ⑦ 区作成の小・中学生向けDVDによる防災学習の実施及び災害に備える日リーフレットの配布
 - ⑧ 避難行動要支援者情報提供申請提出（6地域）
 - ⑨ 水害時避難ビルマップ及びマンホールトイレマップの作成、区HPへ掲載
 - ⑩ 自然災害伝承碑登録（聖賢小・今福小・栄照寺の石碑）
 - ⑪ 自宅避難・分散避難の呼びかけ
 - ⑫ 区役所に防災士資格取得者を4名配置

R2 決算額	43,466千円	R3 予算額	36,810千円	R4 予算額	36,594千円
-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------

<p>予算の主な増減理由</p>	<p>【地域防災対策事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災対策支援の充実化による経費の増 ・避難所対策の充実化による経費の増 <p>【もと区民ホールを活用した防災倉庫の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点（防災倉庫兼避難所）として活用するための整備による増 <p>※令和3年度までは、「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」の一部を再掲していましたが、「4-1-2」の予算額に含まれているため削除しております。</p>
------------------	---



【戦略2-2】

犯罪の少ない安全で安心なまちづくり

ま

めざす成果（概ね3～5年間を設定）

《めざす状態》

- 地域防犯活動に多くの住民が参加し、地域における防犯力を向上させることで、住んでいるまちが安全で安心だと感じて暮らすことができる状態

《成果目標》

- 住んでいるまちが安全・安心だと感じる割合（区民アンケート）
令和4年度 85%以上（令和3年度実績 74.0%）

戦略

- 犯罪の少ない安全で安心なまちづくりをめざして、地域および警察署と協働・連携して、自転車盗、部品盗、車上ねらいなどの減少に向け啓発を強化する。
- 子ども110番の家⁷や、子ども見守り活動等を積極的に支援し、地域における防犯力を向上させる。
- 防犯カメラの設置を行い、犯罪抑止力を向上させる。
- 交通安全意識の向上を高める啓発活動を行う。



用語解説

⁷ 子どもたちが不審者に追いかけられるなどのトラブルに巻き込まれそうになった時に、大人に助けを求めやすい環境を作るために、助けを求められることができる「子ども110ばんの家(商店・事業所を含む)」であることの、目印となる旗などを掲げていただく協力家庭・商店・事業所の確保を進める事業。



戦略2-2の具体的取組

【2-2-1 犯罪抑止力等の向上】

ま

- ① 防犯カメラの設置および適正管理
- ② 特殊詐欺被害防止の啓発
- ③ 発生件数の多い自転車盗など街頭犯罪の一層の減少に向けた啓発の強化
- ④ 青色防犯パトロールカーによる区内巡視
- ⑤ 区内保育所等の野外活動等の見守り支援
- ⑥ 小学校の朝会で注意喚起等の交通安全の啓発活動
- ⑦ 区職員による自転車パトロールの充実（コスモ隊）
- ⑧ 子ども110番の家や子ども見守り活動等への積極的な支援

【業績目標】

ひったくり、路上強盗、オートバイ盗、車上ねらい、部品ねらい、自動車盗、自転車盗の区発生件数が、令和3年より過去3年の平均件数以下

【撤退・再構築基準】

過去3年間の年間最多件数を上回った場合、手法を再構築する。

【前年度までの実績】

（令和3年度実績）
 ・ひったくり、路上強盗、オートバイ盗、車上ねらい、部品狙い、自動車盗、自転車盗の区発生件数554件
 参考：令和元年度770件
 令和2年度617件

R2 決算額	4,903千円	R3 予算額	8,204千円	R4 予算額	13,112千円
-----------	---------	-----------	---------	-----------	----------

予算の主な増減理由	【地域安全防犯対策事業】 ・防犯カメラ交換に係る経費の増 ・自転車盗対策の啓発用物品買入に係る経費の増 ・自転車安全走行に関する路面表示設置工事に係る経費の増
-----------	--

- ①防犯カメラの新たな設置11台、点検108台（うち修理10台）
- ②自転車盗防止及びひったくり防止カバー配付キャンペーンを区内20か所の大規模小売店舗前で実施
- ③区内新小学生防犯ブザー配付
- ④青色防犯パトロールカーによる区内巡視を随時実施（歳末夜間パトロール含む）
- ⑤区内保育所等の野外活動等の見守り支援を随時実施
- ⑥区内小学校全児童に安全啓発チラシを配付（夏休み前）
- ⑦区職員による自転車パトロールを随時実施
- ⑧「こども110番の家」運動の協力1,146件（令和4年2月末現在）
- ⑨自転車マナーアップキャンペーンを区内2か所で実施